

AFRICA X JAPAN X WORLD

Space for Transforming Violence into Peace

暴力を平和に変える空間II

WORKSHOP

Feedback to Reality:from Africa to Post -3.11 Japan
現実へのフィードバック:アフリカから3・11後の日本へ

2011.11.20 (日) 12:00-17:30 (参加費500円)

3331 Arts Chiyoda

<http://spacepeace.exblog.jp/>



2010年より開始された本プロジェクトでは、「暴力の空間」を「平和の空間」に変えるためには何ができるかを、世界・アフリカ・日本からの多様な参加者同士で話し合い、ワークショップを通じた実践を試みてきました。そうしたなか、本年の東日本大震災は「平和の空間」を創造する現代的意義について、自然災害の観点から再考する大きなきっかけとなりました。プロジェクトメンバーは、震災後、世界的に広がる不安と困難への取り組みに共感し、アフリカの紛争のみではなく、世界の自然災害、特に日本を襲った東日本大震災に焦点を当てます。同時代を生きるアフリカと日本人びとと、何ができるかと全員で議論を深め、次のステップへ進むべく、本ワークショップを企画しました。



主催:金沢工業大学 未来デザイン研究所
企画:アフリカ×日本×世界 暴力を平和に変える空間 II 実行委員会
助成:独立行政法人 国際交流基金

問い合わせ・予約先: 金沢工業大学 未来デザイン研究所
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-15-13 tel: 03-5410-8379 fax: 03-5410-3057
email: miyako@neptune.kanazawa-it.ac.jp

会場:3331 Arts Chiyoda, 1F Community Space
〒101-0021 東京都千代田区外神田6丁目11-14

<http://www.3331.jp>

東京メトロ銀座線木広町駅4番出口より徒歩1分
東京メトロ千代田線湯島駅6番出口より徒歩3分
都営大江戸線上野御徒町駅A1番出口より徒歩6分
JR御徒町駅南口より徒歩7分
JR秋葉原駅電気街口より徒歩8分



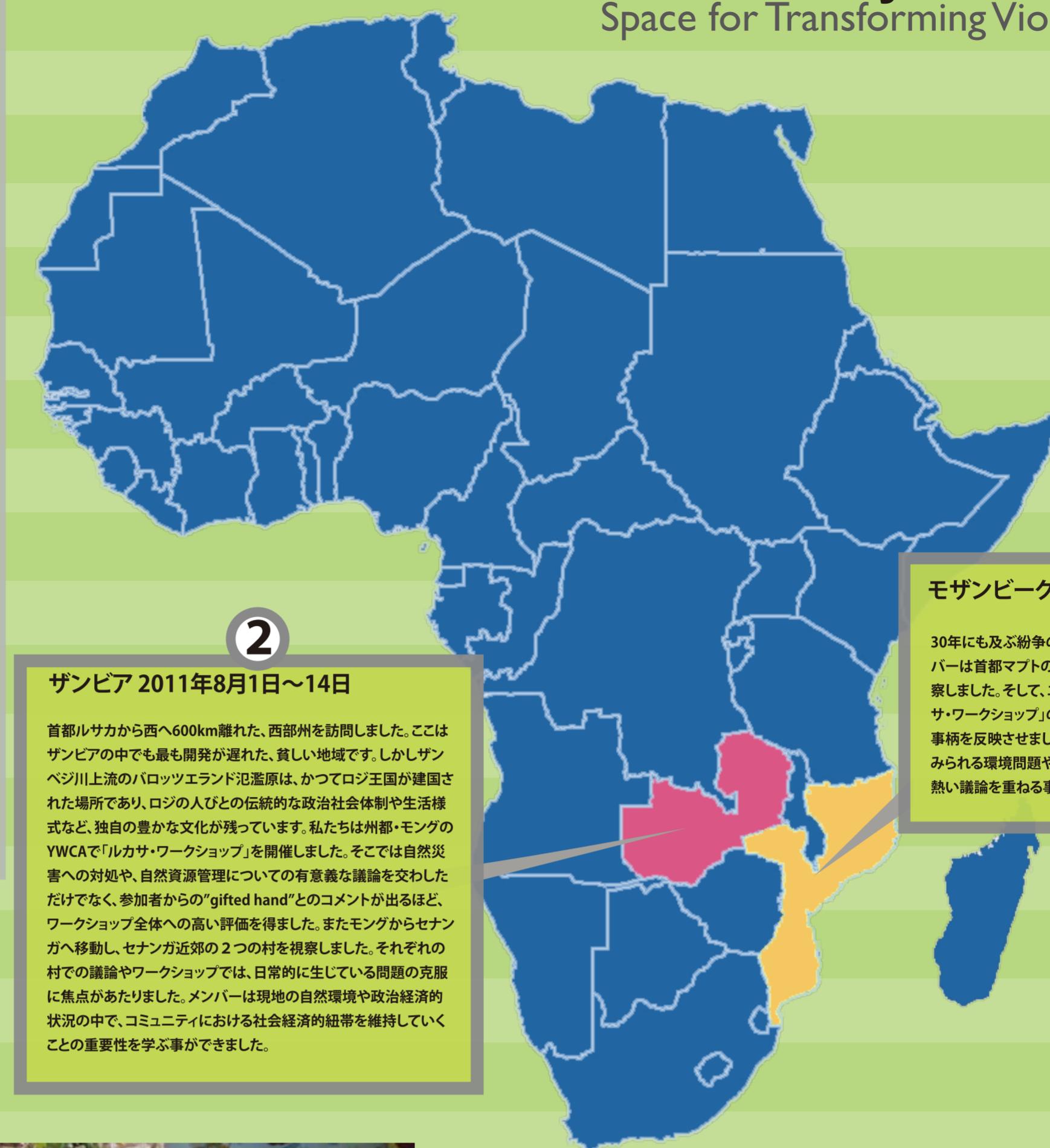
プロジェクトの内容:

2010年に引き続き、本年再び国際交流基金の助成を受け『アフリカ×日本×世界 暴力を平和に変える空間Ⅱ』を実施してきました。まず日本のメンバーは、昨年の招聘者の暮らすアフリカ(ザンビア・モザンビーク)を訪問し、地元大学など現地の機関や住民と共に、都市や農村でのワークショップを開催しました。文化や歴史や環境の違い、そして地理的な隔たりを超えて、共に学び理解し合い、空間を共有することを通じて、自然災害や資源利用をめぐる対応に、コミュニティの団結力がいかに大切であるかを実感しました。また、自然災害に繰り返し見舞われるアフリカの人びとの生活に見られる知恵や、困難を克服しようとする絶え間ない試み、抵抗力についても大いに学ぶことができました。

一方で、アフリカ訪問のため日本を離れたメンバーは、震災後の日本の情勢が、アフリカおよび世界レベルでの社会不安や資源をめぐる問題と大きく連動していることを痛感しました。そして昨年度および今回のアフリカ訪問を通じて学んだことを踏まえ、暴力を平和に変える空間をどのように共に作っていくかを、被災地・日本で議論し、その成果について発信する必要性を感じました。そこで本プロジェクトでは、3・11後の様々な困難に直面する日本や世界の現状に対して、何ができるのかを議論し、アクションにつなげていくことを目的として、ワークショップを開催いたします。

AFRICA × JAPAN × WORLD

Space for Transforming Violence into Peace



2 ザンビア 2011年8月1日～14日

首都ルサカから西へ600km離れた、西部州を訪問しました。ここはザンビアの中でも最も開発が遅れた、貧しい地域です。しかしザンベジ川上流のバロツエエランド氾濫原は、かつてロジ王国が建国された場所であり、ロジの人びとの伝統的な政治社会体制や生活様式など、独自の豊かな文化が残っています。私たちは州都・モンゴのYWCAで「ルカサ・ワークショップ」を開催しました。そこでは自然災害への対処や、自然資源管理についての有意義な議論を交わしただけでなく、参加者から“gifted hand”とのコメントが出るほど、ワークショップ全体への高い評価を得ました。またモンゴからセナンガへ移動し、セナンガ近郊の2つの村を視察しました。それぞれの村での議論やワークショップでは、日常的に生じている問題の克服に焦点があまりました。メンバーは現地の自然環境や政治経済的状況の中で、コミュニティにおける社会経済的紐帯を維持していくことの重要性を学ぶ事ができました。



3 東京 2011年11月20日

Feedback to Reality:from Africa to Post-3.11 Japan

現実へのフィードバック:アフリカから3・11後の日本へ

ワークショップ WORKSHOP 2011.11.20(日) 12:00-17:30
(参加費500円 定員30名 要予約)

3331 Arts Chiyoda 1F, Community Space

アフリカンドラムで始まるこのワークショップは、プロジェクトの紹介やアフリカ訪問の報告などの後、メインとなる「ルカサ・ワークショップ」を行います。その後、後半にはアフリカ出身のコメンテーターも含めて議論をし、この2年間の経験を皆で共有して、東日本大震災後に創造される新たな形の「平和の空間」について提案をすることを目指します。

「ルカサ・ワークショップ」とは、コンゴ民主共和国・ルバ人の伝統的な記憶装置lukasa (ルカサ)からインスピレーションを得て、昨年本プロジェクトで開発したユニークな問題解決方法の道具(ツール)です。6人が一つのチームとなり、用意されたシナリオに添って二手に別れて問題解決を進めていきます。この身近な材料(絵具、粘土、紙、紐、植物、石など)で街や村の立体模型空間を制作するプロセスでは、シナリオから想像される問題を対面式に議論しながら、共にその問題解決につながる空間の制作を進め完成させます。このワークショップの特徴は、架空の、あるいは実在する街や村の立体模型の制作を「平和の空間」の創造にみたてることにあります。そして、シナリオから想像される「暴力の空間」の問題解決にむけた方策をグループで話し合い、実際に手を動かし協働することで「平和の空間」を作り出され認識されています。さらにその空間認識は、グループメンバー間での議論や協働を通じて、双方向的かつ創発的に再考が重ねられ、新たな認識となって共有されます。以上これらを通じて「ルカサ・ワークショップ」では、個人の思考や理解のパターンを越え、議論のみでは生まれないユニークな問題解決方法を導びきだすすることを目指します。既に日本でも各分野で何回か実施され、それぞれ大きな成果をあげています。今回のアフリカへの旅に於いても実施され、手を使った活発な意見交換がなされました。

問い合わせ・予約先: 金沢工業大学 未来デザイン研究所

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-15-13 tel: 03-5410-8379 fax: 03-5410-3057
email: miyako@neptune.kanazawa-it.ac.jp

プロジェクトメンバー:

アズビー・ブラウン 金沢工業大学・未来デザイン研究所所長

竹下都 金沢工業大学・未来デザイン研究所研究員

船田クラーセンさやか 東京外国语大学大学院准教授

米川正子 宇都宮大学特任教授／国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)

ゴマ(コンゴ民主共和国)元所長

村尾るみこ 東京外国语大学アジア・アフリカ言語文化研究所研究員